

宮城県日中友好協会

〒981-0931 仙台市青葉区北山 2-5-1-103

TEL・FAX 022-274-3811

Eメール jcfa-miyagi@rose.plala.or.jp

ホームページ http://www16.plala.or.jp/miyagikenn/



12月、(師走、しわす)。新年まであとわずか。顧みれば今年ほど各地が災害に見舞われた年はないのではないと思う。温暖化?の影響等考えると、益々、環境問題に目を向けないといけないのではないかと思います。皆さんは・・・。

1. 12月の行事

日 時	行 事 名	場 所
12月 1日(日)	第二回中国語の洒落言葉を日本語で楽しむ会 10:00～青年委員会、受講料：一般1000円、会員：700円、学生：100円	仙台国際センター交流コーナー
12月 7日(土)	①中国駐新潟総領事館「友の会」in仙台 12:00～ ②日中料理教室 10:00～ 石巻地区日中友好協会	①メトロポリタン仙台 ②石巻市総合水産振興センター
12月13日(金)	仙台市日中友好協会理事会並びに忘年会 16:00～	宮城県管工事会館・長城
12月14日(土)	宮城県日中友好協会理事会並びに忘年会 13:30～	宮城県民会館・萬寿山

※ 各地区協会・委員会の行事報告等あれば掲載いたしますので、ぜひFax, メール等でお知らせください。

2. ①仙台一大連線就航セレモニーと②大連観光セミナーについて

①11月2日(土) 12:00～仙台国際空港ターミナル中央ステージに於いて、セレモニーが開催されました。これは2012年から休止していた仙台一大連ー北京路線の運航が7年ぶりに再開されたものです。これからは週2往復運行されるということです。このほかに新たに仙台ー上海線も週3往復運行されることなので、仙台と中国を結ぶ定期路線は5往復となりました。会場ではオープニングパフォーマンスとして二胡の演奏があり、開会式では中国国際航空代表挨拶、駐新潟総領事、宮城県知事等の祝辞があり、仙台市長、名取市長、岩沼市長、宮城県日中友好協会会長、東北経済連合会、仙台国際空港国際化利用促進協議会等の来賓が就航を祝ってテープカットをしました。

②11月5日(火) 9:30～花京院スクエア会議して出、セミナーが開催されました。セミナーでは大連市の観光案内が4コースに分けて紹介され、旅行参加者への補助金制度についての事も説明されました。

会場は旅行社関係者で一杯でした。仙台一大連便再開で益々インバウンドにより大連経由で東北地方への旅行客が増えると共に、中国への訪問者が増えることを願っています。



※ 二胡の演奏



※ 中国国際航空代表挨拶



※ テープカット後記念撮影

3. 日中友好料理教室報告 (県日中友好協会・女性委員会)



11月10日(日)、中央市民センター調理室にて恒例の日中友好料理教室を開催しました。今回は16名の参加会員に対し中国側からお子さん3名と初参加者を含め10名、計31名という賑やかな料理教室になりました。和ではお吸い物付桜と花びらを模した「かんたん飾り寿司」。中華は松の実と魚の炒めの「松仁魚米」と「麻婆豆腐焼きそば」。料理後は楽しい交流、アツという間の3時間でした。

4. 富谷で「県民の翼・パンダ写真展」開催



富谷市日空友好協会では11月16日から25日まで、県協会の協力を得て、4月に訪問した四川省成都の旅の写真展を開催しました。内容は半分がパンダ誘致推進を目的に“パンダ”、半分は成都の世界遺産のカットです。期間中、会場の富谷市役所 1F 交流プラザには、家族連れや多くの市民に鑑賞していただきました。

5. ホームスティ・芋煮会を開催しました（大河原日中友好協会）



大河原日中友好協会では恒例のホームスティ・芋煮会を開催しました。11月16日（土）に中国留学生8人を迎えて駅前・オーガにおいて歓迎会を行いました。来賓して、藤田副町長、鈴木町教育長、佐藤町議長、枳県議より歓迎の祝辞を頂きました。会議後、町内の天然温泉“いい湯”に入り、その後、佐々木会長宅で夕食をし、夜遅くまで語り合い、3家庭に分かれ就寝しました。日本の各家庭の文化・近隣とのコミュニティー等を体験したと思います。

また、17日（日）には町世代交流いきいきプラザにおいて総勢18人で芋煮会を開催しました。来賓として、金井県日中副会長、武智県日中副理事長等を交え、留学生の作った芋煮汁・おにぎりを食べ、日本の踊りを見て、歌い、宮城の酒を飲み、語りながら友好を深めました。お互いの文化を理解し、意見を語り合うことから友好は始

まり進むものと思います。ご協力頂いた皆様に感謝申し上げます。

6. 手巻き寿司交流会（青年委員会 吉澤千明）



青年委員会は11月23日（土）仙台多文化共生センターで、日中両国の若者の交流を目的に手巻き寿司交流会を開催しました。参加したのは日本人大学生18人、中国人留学生20人スタッフ10名の48人。6つのグループに分かれ、日本人学生が留学生に酢飯の作り方、キュウリやたくわん、魚肉ソーセージの切り方、ツナマヨの作り方を指導。その後、手巻き寿司を作って食べながら交流をしました。来日1か月の留学生は納豆の糸ひく様子を「たくさん細い糸が出てくる！」と興奮気味。日本人学生が納豆を混ぜて糸を引く様子を「ネバネバ。」と表現すると「ネバネバ。ネバネバ。」と笑顔で繰り返し、音の響きを楽しんでいる様子でした。初めての納豆の味に「少し苦い。」と留学生が言うと、日本人学生が「醤油をつけると味が良くなる。」とアドバイス。醤油をつけた納豆巻を食べ「美味しい！」と笑顔の留学生でした。今回初めていなりずしを食べたという留学生は「いなりずしが一番美味しい。」と、酢飯の他にキュウリやツナを油揚げに詰めて美味しそうに頬張りました。日本語がまだ話せない留学生と英語でコミュニケーションを取っていた大学生は「もっと外国語を勉強したくなった。」と刺激を受けた様子でした。参加した学生は、「日本で人気のタピオカミルクティーが中国でも人気だと聞いて中国人と日本人は感覚が似ていると感じた。留学生が日本のことをよく知っていて驚いた。



日本を好きだと言ってくれる留学生の言葉を聞いて嬉しく思ったし、自分も中国に親しみをを感じるようになった。今後もこのような交流活動があればぜひ参加したい。」と語り、中国人留学生からは「今日の交流会は、美味しかったし楽しかった。日本には美味しいものがたくさんありますが、中国にも美味しいものがたくさんあるので、みなさん機会があれば美味しいものを食べに中国に行ってみてください。」という言葉が聞かれました。青年委員会では今後も日中両国の若者たちが交流出来る活動を企画していきたいと思います。 次回の青年委員会では令和2年2月2日午後2時~仙台多文化共生センターにおいて「元宵節を祝う会」を開催いたします。皆さまのご参加をお待ちしております。



7. 魯迅先生逝世83周年碑前祭並びに留学生昼食交流会について



毎年、魯迅先生の命日10月19日に催されていた碑前祭が今年は、大雨警報が出て災害が出る恐れがあったため、急遽11月19日の月命日に延期され開催されました。仙台市博物館の一面をお借りして開催された式典には40名（内留学生10名参加）が参加し、出席した郡和子仙台魯迅先生顕彰会会長（代理：天野元仙台市文化観光局局長）、佐々木謙宮城県日中友好協会会長、尹斯遠仙台地区中国学友会会長、星和行宮城県経済商工観光部アジアプロモーション課課長からご祝辞をいただき、来賓の小野敬則宮城県国際化協会専務理事兼事務局局長、高橋証明仙台観光国際協会国際化事業部長、鈴木宏毅日中友好協会宮城県連合会副会長、宮城県・仙台市関係者が紹介されました。式典後、「魯迅之碑」前に移動して蘓武多四郎宮城県日中友好協会副会長より「魯迅之碑」に関する説明があったのち、参加者を代表して天野元仙台市文化観光局局長、佐々木謙宮城県日中友好協会会長、尹斯遠仙台地区中国学友会会長が献花をするのと同時に一同拝礼をし、記念撮影に移りました。記念撮影後は一同、式典会場に戻り、華花舞踊チーム（程艶春、庄司富英、孫毅）による中国舞踊演舞を鑑賞しました。演目は踏歌（トウカ：中国唐朝の宮廷舞踊で、春の季節、唐の宮廷の美女たちが庭に出て、春の到来を祝って、春の喜びを表現した踊り）で、軽快なリズムとしとやかな踊り姿は人々をタイムスリップさせてまるで唐の時代の宮廷に戻ったようでした。碑前祭終了後、場所を銀座ライオン一番町店に移し、30名（留学生9名参加）が参加した留学生昼食交流会を催しました。会では6テーブルに各々留学生が座り、テーブルごとに名前、出身地、将来等について話が弾み、時間がたつのも忘れてしまうほどで、別れがたき交流会でした。碑前祭、交流会に参加された方々に感謝申し上げます。



8. 全日本スピーチコンテスト東北大会の全国審査結果について（青年委員会 吉澤 千明）

スピーチ一般の部の松木裕花さん（山形代表）が音源審査を通過し全国大会出場が決まりました。また、朗読高校生部の星七姫子さん（宮城代表）が全国上位3人に選ばれ、全国大会の会場で朗読披露することになりました